

はじめに

少子・高齢化と人口減少が同時に進行し、本格的な超高齢社会を迎える中で、「団塊の世代」の方々が新たに高齢者世代に加わることにより、高齢者の生活様式や考え方、価値観等が更に多様化することなどが見込まれます。

このような状況の下で、地域社会を維持し、活力あるものとするためには、元気な高齢者が、「共生・協働の地域社会づくり」の担い手として、その豊富な知識や経験・技能を生かしながら社会参加し、活躍していただくことが求められますが、地域活動に意欲を持つ高齢者にとって、情報やきっかけが少ないために、活動する場を得にくい状況にあります。

このようなことから、県では、高齢者がその能力を十分に発揮し、生きがいを持ちつつ生活への意欲を高めていくことのできるような環境づくりを目的として、平成20年度から「元気高齢者チャレンジ推進事業」を実施し、高齢者を中心とした地域貢献活動団体の取組を支援し、高齢者の積極的な社会参加の促進に努めております。

この事業の一環として、県が「高齢者を中心とした地域貢献活動団体」を募集し、県内の各地域振興局・支庁から選ばれた7つの団体の表彰式・事例発表会を、県と県社会福祉協議会の共催で、昨年10月31日にかごしま県民交流センターで開催しました。

事例発表会では、地域おこしや様々なボランティア活動で地域社会に多大な貢献をされている7つの団体が活動状況を発表されるとともに、特定非営利活動法人プロジェクト南からの潮流 理事長の田代昌弘氏の「“元気集落『高齢化60%』からの挑戦”～共生・協働のまちづくり～」と題した基調講演があり、多くの参加者から「自分たちも地域のために頑張りたい。」との感想をいただきました。

これからの地域社会においては、行政だけでなく、老人クラブ、地域コミュニティ団体、ボランティア団体、NPO法人など、多様な主体が連携、協力して支え合うことが求められています。

このたび、今回表彰された7団体の活動状況と基調講演の内容を取りまとめましたので、皆様の今後の活動の際の参考にしていただければ幸いです。

最後に、当事業にご応募いただきました各団体の皆様をはじめ、表彰式・事例発表会の開催に当たりご協力を賜りました関係機関・団体の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成25年2月

社会福祉法人 鹿児島県社会福祉協議会